

令和元年度米沢市総合教育会議（第3回）議事録

日時：令和2年3月26日（木）

開会 午前 10時00分

閉会 午前 11時28分

場所：教育委員室

1 出席構成員

市長	中川 勝	教育長	大河原 真樹	委員	土屋 宏
委員	佐藤 晃代	委員	我妻 仁	委員	渡邊 美智子

2 出席職員

教育管理部長	渡部 洋己	教育指導部長	今崎 浩規
教育総務課長	佐藤 徹	社会教育課長	梅沢 和男
スポーツ課長	佐藤 幸助	文化課長	佐藤 恵一
学校教育課長	山口 まゆみ	教育総務課長補佐	小田 浩昭
教育総務課総務主査	佐藤 真英	教育総務課主査	伊藤 和香子

3 協議

(1) 米沢市教育等に関する施策の大綱の策定について

(2) その他

4 その他

教育総務課長 令和元年度第3回米沢市総合教育会議を開会いたします。初めに、中川市長が挨拶を申し上げます。

———市長挨拶———

教育総務課長 ありがとうございました。協議につきましては、座長を市長にお願いいたします。

市長 はい。それでは、協議に入らせていただきます。(1)の米沢市教育等に関する施策の大綱の策定について事務局よりお願いします。

教育管理部長 では、私から資料の説明をさせていただきます。前回の総合教育会議において素案を提案させていただきました。委員の皆様から様々ご意見を頂戴いた

しました。その中で米沢らしさをもっと前面に出したほうが良いのではないかと
というご意見をいただいたところでありましたので、改めまして理念と基本方
針について見直しをさせていただきました。基本理念につきましては、「教育
の米沢品質」を前面に打ち出しながら、持続可能な社会に貢献できる人づくり
を目指していきたいということを基本理念に掲げさせていただいております。
この一文では分かりにくいということがありますので、その下に「教育の米沢
品質」とはということをもとめております。「なせばなる」の精神に代表され
る先人の教えや、米沢に長年培われてきた精神と文化を大切にしながら未来を
見据えて、学園都市米沢の強み、特性を活かして一人ひとりに質の高い教育を
提供することが米沢品質であると位置付けさせていただいております。また、
未来に向けて、現在の人生100年時代やグローバル化等の今の時代を見据え
まして、多様性が求められるということもありますし、自ら考え行動すること
ができ、逞しく社会を生き抜く力を持ちながらも、思いやりや相互理解力を併
せ持った新たな時代にマッチした「がってしない子ども」を育てていくとい
うことを目指していきたいと思っております。その中で米沢から世界を目指す若
者や、一人ひとりが輝いて地域を担う多様な人材を育てていくことを理念とし
て掲げていきたいと考えております。なお、この理念の中で「教育の米沢品
質」を確立し、と提案させていただいていますが、表現が硬いのではないかと
いうこともあり、「共に創り上げる」としてはどうかと考えておりますのでご
意見をいただければと思います。この基本理念を具現化するための基本的な方
針を4つ掲げております。1点目として、「新たな時代にマッチした『がって
しない子ども』の育成」ということを考えております。これまでの逞しいとい
うことだけではなく、優しさや思いやりを併せ持った新しい時代にマッチした
「がってしない子ども」を育成していきたいということでございます。2点目
の「自立し、これからの時代に適応できる能力の育成」については、新たな時
代に合わせて「学思行相須って良となす」という教えを活かしてこれからの時
代に必要とされる能力を育成していくということを唱っております。3点目の
「生涯学び、学びを活かして元気に活躍する人づくりの推進」では、芸術文化、
スポーツ等を通じて長寿社会を元気でしなやかに生きる心豊かで健康な人づく
りと併せまして、生涯にわたって学び、その学びを活かして自己実現を図りな
がら、また地域に活力を与えることができる人づくりを目指していきたいとい
うことでまとめております。4点目の「地域の教育力の向上と地域愛を持った
人づくりの推進」では、家庭、学校、地域が連携した教育体制をつくりあげな
がら、地域に伝わる伝統文化を通じて幼少期から郷土への誇りや愛着を養って、
将来にわたって本市のまちづくりに関わる人づくりを推進していきたいとい
うことで基本方針を4点まとめさせていただきました。右側に教育基本振興計画

の施策に盛り込む事項としてまとめさせていただきましたのは、これまで総合教育会議や教育基本計画の検討委員の皆様方からいただきました様々な提案について具体的な施策に盛り込む考え方等をお示しした基本方針の1から4までに分類しております。この基本計画については、今後の検討委員会で具体的に検討してまいりますので、また変わってくることもございます。今、お示しをしている様々な観点や推進の具体的な施策につきまして、またこれに肉付けをしながら基本計画をまとめていく形になりますことご理解いただければと思っております。ご審議よろしくお願いいたします。

市長 米沢市教育大綱修正案について説明がありましたが、大綱については今日が最終という位置付けでいいですか。

教育管理部長 はい。

市長 「教育の米沢品質」というものを前面に出しながら、このような方針で米沢市の教育振興基本計画を具体的にとりまとめていくということでありましたけれども、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思えます。

我妻委員 「教育の米沢品質」についての説明に質の高い教育を提供するという文言がありますが、質の高い教育とは一体何なのかとなると、この中に盛り込まれているだろうかと思いました。先人からずっと受け継いできた「なせばなる」をはじめとした精神文化を心に持って、それを大切に未来に向かって、学園都市の強み等を活かしながらやっていくということは非常に大事ですばらしいことだと思いますので、この質とは何かということをもっと表現できると良いのではないかと思います。基本方針の1番に「勇なるかな」とありますが、これは細井平洲先生の言葉から採られたものだと思いますが、ちょっと唐突感があるように思います。認知度も高くないと思いますので、この言葉を入れるのであればコメントが必要だと思いました。それから、草木塔もすばらしい精神文化の一つであると思えます。草木塔の精神の背景にある自然との共生、或いは、自然への感謝といった、草木塔に根付く精神をどこかに表現できないものかご検討いただきたいと思います。もう1つは、敬師の心も大切な考え方ではありますが、前の原案にあった公德心、公共心、規範意識というところが抜けて、この敬師の心だけが出てくると、ちょっと強調しすぎているように感じます。それと、「がってしない子ども」についてですが、新しい時代にマッチした「がってしない子ども」と言われても、具体的なイメージが浮かび上がってこないように思います。もう少し家庭に求める教育の根本的な考え方、例えば、生活習慣、学習習慣、公共心、規範意識、読書習慣といったものを、家庭教育が弱まっている中でもっと高めていかななくてはいけないということを入れていただき、読んだ方に大切だということが伝わるようにしていただければと思いました。

市長 ありがとうございます。いろいろご意見をいただきましたが、委員の皆様いかがでしょうか。

佐藤委員 基本方針の1番があまりにも米沢品質ということを意識した内容で「なせばなる」、「勇なるかな」、「草木塔」、「敬師の心」と盛り沢山すぎるのではないかと思いました。前回までの基本方針にありました基礎学力や応用力、社会を生き抜く逞しい心や健やかな体づくりのようなところに全部結び付くとは思いますが、もう少しまとめた形で学力をさらに上げていくということを考えていただけたらと思います。

渡邊委員 前回の案では、「がってしない」という言葉がなかったのですが、今回の修正案でやはり戻ってきたなと思いました。子どもに「がってしない」という意味がわかるか尋ねたところ、意味はよくわからないけれど、よく耳にすると聞いていました。方言がなかなか使われなくなってきた子どもたちの年代にも米沢の教育の軸にあったというところでは、まだまだ根付いている言葉なのだと思います。私は「がってしない子ども」の育成という言葉が戻ってきたことは大変良かったと思います。ただ、検討委員会の中で「がってしない」という言葉に反対だというご意見がありました。繊細な子どもや感受性が強い子どもは、「がってしない」という言葉とはちょっと離れたところにおいて、実はそういう子ども達も大変すばらしいものを持っていて、「がってしない」という言葉には括り付けられないというお話が私の心の中に残っております。「がってしない子ども」の育成、夢に向かい逞しく社会を生き抜くという言葉の中に、そういった子ども達は入っているのかどうかと思ったときに、先程の説明の中の逞しいだけでなく、新たな時代にマッチしたというところの新たな時代という言葉に包括的に表されているのではないかと納得できましたので、基本方針の言葉自体には賛同いたします。草木塔についてですが、自然と人間の共生、正しく今、世界的にもそういったところが注目されておまして、それが置賜地方で大切にされてきたということは大変すばらしいことだと思います。「がってしない」というところだけではなく、基本方針の4番の地域の教育力の向上と地域愛を持った人づくりの中にも関わってくるのではないかと捉えさせていただきました。

市長 はい。前回の総合教育会議で出た米沢らしい教育に集約されるのが、「がってしない子ども」であって、その中で鷹山公と細井平洲先生との関わりや草木塔の話も出てきたわけです。今度は新たな時代にマッチした「がってしない子ども」ということですが、この「がってしない子ども」が出た頃の時代背景と今の時代背景や子どもの教育環境も違っているので、各委員の皆様からその辺のご意見が出たのだと思いながらお聞きしました。事務局としては米沢らしい教育ということで前回の意見を集約して（1）にまとめたものと思いますが、米

沢市民なら「なせばなる」の精神はだいたいわかっていると思いますが、「勇なるかな」や草木塔はどのように理解していくのか、ちょっと難しい部分もあると思っています。（１）の４つの方針そのものがこういったことで良いのかということにもなってきますが、「がってしない子ども」という表題で良いとするならば、繊細な子どもをどうやって伸ばしていくか、これからの情報化社会の中で「がってしない子ども」をどういうふうにしていくのか、今の時代にマッチした「がってしない子ども」をどう説明していくかということがあると思います。３人の委員の方々のお話を聞いて土屋委員いかがですか。

土屋委員 米沢らしさをいっぱい盛り込んで修正案をつくっていただけてよかったというのが一番に思った感想です。米沢独特の言葉には歴史的なものがあるので説明が必要だろうと思いました。「がってしない子ども」についても思いやりの心を持った「がってしない子ども」というような説明をしなければいけないのだと思います。「がってしない」は良い意味だけではありませんので、学校では思いやりの心を持った上で、どんなことにも耐えられる、頑張ることができるということだという補足説明をしながら使ってきました。新たな時代にマッチしたというところについては、きっちと子ども達に伝わる文言にしていかなければいけないと思いました。草木塔についても別枠で補足説明が必要だと思います。それから、教育委員会が所管している学校教育、社会教育、家庭教育、スポーツ、芸術の部分にうまくこの基本方針を落とし込めていければ一番良いわけですが、これを具体化していくと考えた時にそれは難しいのではないかと思います。例えばですが、基本方針を受けて重要項目を設定して、さらに具体策と考えた時に、基本方針と重点項目をうまくリンクさせていくようにするには、もう少し考えなくてはいけない部分があると思いました。

市長 教育長から何かありますか。

教育長 今、お話をお聞きして４つ程思ったのですが、まず、草木塔が５教振の中で山形県の精神的な支柱だということで置賜の草木塔が紹介されていたのですが、米印で説明があったはずですが、草木塔の説明は必要だということと、草木塔はどちらかというと畏敬の念のほうで使われていたという記憶がございます。感謝や敬いというより感謝や畏敬の念としたほうが良いのではないかと思います。「がってしない子ども」については、今までの「がってしない」は負けないとか、へこたれないという意味だったのですが、新しい時代の「がってしない」はAIに負けない、繊細な心を持った子どもや、未来を切り開く勇気を持った子どもというように意味の読み替えが必要だと思いました。もう１つは「勇なるかな」、「学思行」という言葉については米印で説明をしたほうがわかりやすいと思いました。

市長 はい。ありがとうございます。草木塔は教育委員会だけではなく、米沢市とし

て地域づくりにどう生かしていくか、地域づくりの視点でもしっかりと捉えていく必要があると思っています。新しい時代にマッチしたがってしない子どもの育成の中で、これが良しとなれば、草木塔や「勇なるかな」という言葉の意味の説明は必要だと思います。基本方針の中で言葉としてそれをどう表していくかということだと思っていますが、委員の皆様いかがでしょうか。それから、家庭教育をどう向上させていくか、これほど難しい教育はないと思います。この場はいろいろ問題点を出し合っていて大綱に結び付けていくということが重要だと思いますので、忌憚のないところでお話したいと思っています。

我妻委員 家庭教育は非常に難しい課題だと思いますが、せっかく子ども読書計画が新しくなって家読というものが大方針として出たので、この教育大綱に家庭教育を高める大事な方策として、小さい頃からの読書習慣をしっかりと身に付けさせていくということを入れていただければと思います。私が教育委員会に出席させていただいてインパクトが残っているのは「学力に確かな学力も真の学力もないんだ。学力は学力なんだ。」という言葉です。その学力を構成するものは読み書きそろばんの基礎的な知識と細井平洲先生の言葉にあるように学ぶだけではなく自ら考えて、それを実践に持っていくのだということだと思います。それがこれからの学校教育だと思います。その中でAIに打ち勝つためには思考力なり、自分で考える力を身に付けていく、AIにできないところを補完していくということだと思いますので、その辺を上手く盛り込んでいただければと思います。

渡邊委員 家庭教育は学力という面でも重要なことだと思いますが、3月から休校という措置が取られ、家にだけいる子ども達の様子を見ると、今まで私がやり過ぎたのかなと思うことが多々ありました。1つは、子ども達が自分で食事をつくって食する時、その食事が自分の体に良いものなのかどうなのか考えてつくるということを教えてこなかったということです。親として教えるべき生きる術、考えなければいけないことを教えてこなかったと私自身が気付かされた部分がありました。どうやったら美味しくできるか、体に良いものができるか、食材をどこで調達するかというようなことを考える良いチャンスになったと思います。毎日いるスペースも私が片付けるだけではなく、自分で掃除をして洗濯をするというように、生きていく上で、これまでずっと親がやってきたことを1つずつ子どもに見せて、真似をさせて学んでいく必要があったと考えました。

佐藤委員 家庭それぞれの経済状態や家族構成に差があって、子どもに弁当を持たせることに苦勞する家庭、寝る前に子どもに本を読んであげるということに気が回らない、それどころではないというような家庭もあって、そこから豊かな心づくりや学力ができてしまい、小学校に入学すると、また差が出てしまうというこ

ともありますので、その辺を何とかできないかと思います。子どもを授かった時から親の教育が必要な時代になっていると思っています。

市長 中学校給食が始まった頃の話ですが、中学校給食に反対の人は、中学生くらいになったら、お母さんと一緒に起きて自分で弁当をつくらることができるだろうという意見、もう一方では、親にそんな余裕はないので中学校給食は実施してもらわないとだめだという意見がありました。最終的には中学校給食が始まったわけですが、本来は日常的にお母さんと一緒に自分の弁当を詰めたり、料理をしたりということがあればいいのでしょうか、その時その時で時代の流れが変わっていきますからね。時代は変わっているのだということ意識しながらということになりますけれども、教育の基本的な思いやりや学ぶ力をどうしていくかということとは変わらないでしょうから、米沢の教育らしい「教育の米沢品質」とした場合、この基本方針はどうでしょうか。

教育管理部長 先程、土屋委員から思いやりの心を持った「がってしない子ども」というお話がありましたので、新たな時代にマッチした思いやりの心を持った「がってしない子ども」の育成と修正させていただければと思っています。

市長 基本方針の1番目ですね。どうでしょう。

我妻委員 いいと思います。

市長 その中に出てくる言葉については市民全体にわかるように説明文が必要だと思います。2番目の「自立し、これからの時代に適応できる能力の育成」のこれからの時代に適応できる能力の育成の部分がGIGAスクールを含め、新たな教育が入ってくるのかと思います。1番目は教育の基本的な考え方で、いつの時代も変わらない部分がありますよということ。2番目のこれからの時代というのは教育現場ではGIGAスクールや英語教育等新たな取組が進んでいますけれど、それらを関連付けていく流れにしていけばいいのではないかと思います。いかがでしょうか。

我妻委員 1番目が思いやりを持った「がってしない子ども」ということで、中身は今までお話のあったことを盛り込んでいただければいいと思いますが、どちらかというと子ども達が生きていく上での心構えや日々の感情面的な心の健康さが求められています。2番目はこれからの時代はグローバル化、英語教育、プログラミング教育、人間としてAIに対抗できる知力を高めていくというようなことで学力や学校教育の中で必要なスキルが入っていますので、自立しという表現が良いかどうかは別として、土屋委員のおっしゃったこれからの時代に適応できる能力がここに入ってくれば良いのではないかと思います。

市長 自立していくにも、何をしていくにも、我々が育った年代と一番違っているのは少子化だと思います。子どもが少なくなっている中で、これからの時代に適応できる能力をどのようにしていくか。これからの子どもはコンピュータ等の

機器との向き合いが増えていくでしょうけれども、そういった機器上ではない部分での自立や時代に適応できるといったことをどう方向付けていったらいいのか難しいところだと思います。それと自立という言葉はどうでしょう。

教育長 少し唐突感があるように感じます。(1)も(3)も表題はその文章の中にある言葉を使っていますので(2)も例えば、「自ら学び考え、これからの時代に適応できる能力の育成」ということではどうでしょうか。

教育管理部長 参考までにですが、「学思行、相須って良となす」ということをインターネットで調べた時にベネッセ教育総合研究所でもこの言葉を提唱しております。その解説として、総合学力育成の大切さということで教科学力、生きる力と学びの基礎力の3つを合わせて21世紀型学力としての総合学力というように定義しているようです。我々も学力としての力や、これから生きる力として、例えば、コミュニケーション能力やAI技術を活用する情報収集能力を学んでいくような教育をしていかななくてはいけないと考えておまして、その中で適応できる能力ということで提案させていただいたのですが、能力というより力のほうが良いのではないかとお話をお聞きして思いましたので、その辺もご検討いただければと思います。

市長 自立については、教育長から提案のあった文言で良いのかな。

教育管理部長 はい。

市長 では、能力と力はどうでしょう。

教育長 適応できるとなると能力のほうがしっくりくるような文言なので、例えば、これからの時代を生き抜く力の育成ではどうでしょうか。生き抜くとなると力がしっくりくると思います。

市長 委員の皆様、いかがでしょうか。

土屋委員 良いと思います。

市長 学校教育の方針にも生きる力とあるから子どもや親にも伝わっていると思います。子どもが少なくなって、AIや情報機器が進化している、これからの難しい時代を自分は生き抜いていかななくてはいけないというところを育てていくことが大事だと思っています。基本方針の2番目としては、教育長からあったように「自ら学び考え行動し、これからの時代を生き抜く力の育成」として、具体的な文言については、基本計画の中でどのように出していくかということになると思います。また、後で何かご意見があればお聞きしたいと思います。3番目の「生涯学び、学びを活かして元気に活躍する人づくりの推進」というところはいかがでしょう。芸術文化とスポーツの大きな生涯学習というものがあって長寿社会を元気で生き抜きながら活躍していただきたいという思いを、児童生徒のうちから意識して、学校教育だけでなく社会全体が子ども達をどう育成していくかということにつながっていくと思います。4番目の「地域教育

力の向上と共に地域愛を持った人づくりの推進」というタイトルはいかがでしょう。

教育長 お話をお聞きしていると家庭教育ということが多く出ておりましたので、例えば、「家庭・地域の教育力の向上」としてはどうでしょうか。次に地域愛とありますが、文章を読むと幼少期から郷土への誇りや愛着を養いと書いてあるので郷土愛ではないかと思って読ませていただきました。

市長 いかがですか。家庭教育はシングルマザーやシングルファザーの家庭もおありになるし、社会問題になっている貧困家庭、両親がいても貧困家庭という位置づけ、そういった中で家庭教育のあり方というのはその家庭によってかなり違うと思います。両親が揃っていて貧困でない家庭の教育が全てうまくいっているわけではないでしょうし、そういう意味で家庭、学校、地域が連携した地域教育の体制をつくり上げていくということはなかなか難しい問題だと思っています。シングルの方を追い詰めるようなことがあってはならないし、そういった方を地域でどうカバーしていくか、これは教育委員会だけでなく市政全体で取り組んでいく問題も出てくると思います。子ども食堂のことがいろいろ言われていますが、本当に困っている親を支援できる子育て支援のあり方を複雑な時代になってくる程考えていかななくてはいけないと思っています。基本計画の施策の策定になると、おそらく、このようなことが問題提起としていろいろな方から出てくると思います。方針としては、教育長からお話がありましたように地域教育力の前に「家庭」を入れて、向上と共に郷土愛を持った人づくりの推進という文言に修正するというところでよろしいでしょうか。4つの方向性が出ましたので、事務局にはまた基本方針の説明を検討していただきたいと思えます。

教育管理部長 3番目と4番目に人づくりの推進と入れているのですが、人づくりで止めさせていただければと思います。

市長 委員の皆様、全体を通してみていかかですか。今日はいろいろなご意見が出たけれど、事務局どうですか。

教育管理部長 策定する中身としては、理念と基本方針とそのタイトルになります。その内容につきましては、ご意見を様々いただきましたので修正させていただきます、改めて皆様方にお示しさせていただきますので、文書のやり取りをさせていただいて、最終的に練り上げさせていただければと思っております。

市長 そうすると、次の総合教育会議は開かず、修正した文書のやりとりでという対応ということですね。委員の皆様いかがでしょうか。会議としては今日が最後になりますので、何かありましたらお願いします。

我妻委員 2番目の「これからの時代に必要とされる能力を育成する」というところですが、これからの時代に必要とされる力とは何ぞやと考えれば、語学力、多言語

力、A Iに負けないようにするには読解力、コミュニケーション力といったものになると思いますので、ぜひ、入れていただきたいと思います。

市長 そういった文言をどう表現するか、後は具体的な計画の中に盛り込んでいくということになるでしょうから、その辺を整理してください。他にいかがですか。

渡邊委員 私もコミュニケーション力がA Iやグローバル化の中で重要になってくると思います。この基本理念、基本方針の中にそのニュアンスが感じ取れなかったのが気がかりでしたので、何かそれが感じ取れる言葉はないかと思った時に基本理念の中の教育の米沢品質を確立し、というところを「共に創り上げ」に変更してはどうかというご提案があり、そこに人との関わる力や、人と一緒に創り上げていくチーム力が感じ取ることができると思いましたのでとても良いと思いました。

市長 他にいかがでしょう。

我妻委員 基本理念の「教育の米沢品質」を共に創り上げというのは良いと思います。その次の持続可能な社会に貢献の持続可能にもSDGsのように大きな目標があって持続可能な社会という位置付けで、それに向かっていこうとする時に貢献していこうというのか、人口減少、少子高齢化が進んで消滅していく社会を食い止めていこうというものが持続可能な社会なのかと考えた時に、SDGsの方だとしたら、持続可能な社会に貢献できるではなく、夢や希望を持った形で、例えば、豊かな、幸せな社会づくりに貢献できる人づくりという感じのほうがいいのではないかと思います。持続可能という縮小社会を食い止めるために何とかがんばって縮小しないようにしようという後ろ向きなイメージもあります。敢えて、持続可能という言葉を入れる必要があるかどうかということです。社会貢献するのだということで良いのではないかと思ったところです。

教育長 SDGsからの決意、私たちは絶対にこれを未来の子ども達に残していくという意味での持続可能ということで持続可能という言葉を入れてはどうかと思ったところです。

渡邊委員 私は持続可能という言葉をどちらかというと前向きなイメージで捉えましたので、豊かな社会も含まれた社会を指していると思いますし、今の時代に合った文言だと思います。

市長 よく使う言葉ですけど、今ある米沢を少しでも良くして、この後の時代に残していきたい、その思いを引き継いで、またそういう思いを持ってというのが持続可能という言葉になったのだと思います。この基本計画の策定はいつになりますか。

教育管理部長 来月に第3回目の検討委員会の開催を予定しています。この大綱をお示しながら具体的な施策の柱立てを取りまとめていく手順になります。

市長 他にいかがですか。では、何かありましたら事務局を通してお話いただければ

と思います。基本的なところについては、今日ご議論いただいたところをもう一度取りまとめて文言の整理をしていただくということによろしいですか。

各委員 はい。

市長 (1)の大綱の策定については終わらせていただきます。(2)のその他ですが、委員の皆様からございますか。なければ4番目のその他ですが、事務局いかがですか。

教育管理部長 特にごませせん。

市長 では、これで協議を終わらせていただきます。

教育総務課長 長時間に渡り、ご協議いただきましてありがとうございます。以上を持ちまして第3回米沢市総合教育会議を閉会いたします。